

## 水から考える環境問題

高岡第一高等学校 二年 北村吏沙子

「地球環境について考えてみよう」と言われたただけであつたら、それこそ地球単位で物事を考えなければなりません。だから私は今回、私たちが住む日本という国の単位で「地球環境」について考えてみようと思いました。

日本で「地球環境」の問題というのを思い出すでしょうか：人によってさまざまなことを連想すると思います。私が調べて気になったのは「水」についてでした。

水は私たち人間の体の三分の二を占めていることから分かるように、人間に

とって最も大切なものの一つです。

「バーチャルウォーター」又は「仮想水」という言葉を聞いたことがありますか。この言葉は、農産物の生産に要した水の量を、農産物の輸出入に伴って売買されたという風に解釈したものです。

日本は豊かな水産資源を持っていますが、同時に食料自給率が先進国の内で断トツに低い国でもあります。食料自給率が断トツに低いということは、同時に世界最大の農産物輸入国であるということも示しており、前記のバーチャルウォーターの最大輸入国でもあります。そして日本が輸入しているバーチャルウォーターは年間数百億トンから千数百億トンであると考えられています。

私たちに普段食べる、馴染み深い牛丼にどれだけのバーチャルウォーターから出来ているか考えてみましょう。牛丼の主役は牛肉です。現在日本の食肉の自給率は五十四パーセントで、約半数を輸入にたよっています。「国産牛だからバーチャルウォーターとは関係ない」と思う人も多いと思いますが、例え国産牛でも、その牛の飼料は外国から輸入したとうもろこしや穀物がほとんどを占めるからです。

つまり、私たちはバーチャルウォーターに頼らざるをえない状況にいます。

では、もし世界的な水不足になったら、どうなるのでしょうか。もちろん、日本のような先進国もそれなりに苦労しますが、一番悲しい思いをするのは、発展途上国の人たちです。私は以前テレビで家族のために二時間も三時間もかけて水汲みに行く子供たちの話を見ました。その子供たちは、その水汲みに行くため、学校に通えない、ということでした。もし、世界的な水不足が起きて、その子供たちが水を汲みに行っている井戸がかわれてしまったらどうなるのでしょうか。その子供たちは半日、もしかしたら一日かけて水を汲みに行かなければならなくなるかもしれないのです。

その点、日本を見てみると、蛇口を捻れば水が出るし、それができなくとも、コンビニやスーパー、自動販売機で少しのお金を出せば水を買うことができます。日本に住んでいる、ということはその時点で水を汲むために数時間以上かけなければいけない人たちよりも恵まれています。では、そんな私たちができる「地球環境」に良いこととは何でしょうか、私が今回述べた「水」に関して言えば、日ごろから節水を心がけること。もう一つは食品を買う時はなるべく国産のものを買う、バーチャルウォーターを減らすことに努めることだと思います。

どなたかが「一人一人の力はとても微力だけれども、合わさればとても大きな

力になれる」とおっしゃっていましたが、まさにそうだと思います。一人一人の  
思いと行動が地球の未来を良い方へ変えてくれるのです。

